会　報
通巻 141号　発行日　2023.09.10

Der Wind
（風）

湘南日独協会
Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan
事務局:〒251-0025 藤沢市鵠沼石上 1－1－1
江ノ電第2ビル7F
Tel:0466-26-3028 Fax:0466-27-5091
E-mail: jdgshonan.official@gmail.com https://jdg-shonan.ciao.jp/

湘南日独協会25年と共に

湘南日独協会　理事　伊藤 志津子

筆者と孫娘

小学校３年生の孫娘と私は折紙やトランプなどでよく一緒に遊ぶ。彼女は私の手の甲の浮き出した血管や、顔に刻まれたシワに興味をもつ。器用に私の手の甲の血管をちょいとその細い指先で挟んでみて不思議なものを見るような顔をする。

「何してるの、やめなさいよ」とたしなめると今度は顔を覗き込んできて、「あ、ばあば、シワ見〜つけ！」と言い、そっちに気を取られているとまた手の甲を触っている。そうしてからかうのはいつものこと、もう幼稚園の時からで深い意味はないのだが、わざと真剣な顔つきで「シワもね、血管もね、この白髪だってね、これだけになるのは大変なのよ。75年もかかったんだから、ばあばの自慢よ」と言ってみると、孫娘はふう〜んと頷く。75という数は分かってもまだ人生に８年の経験しかない彼女には老いの意味はたしかに「ふう〜ん」であろう。自身の老いなど自慢にはならないが、年齢を重ねることは経験を重ねることだと思えばそこは自慢してみたくなる。

これまでの私の年月の１/３に湘南日独協会が存在していて、その間の貴重な経験は私の成長につながる。それはひとえに人との出会いであった。
歴代の会長と役員の方々からはもちろんであるが、この25年間に出会うことができた会員の方々から私は本当に多くを学ぶことができた。湘南日独協会の色合いというのだろうか、どの方にも落ち着いた穏やかさが漂い、会話からは話題の奥深さを感じる。豊富な人生経験が伝わってくる。

25年前、1998年11月14(土)午後6時から、鎌倉パークホテルで開催された湘南日独協会設立総会に出席した。私はその数年前にドイツから15年ぶりに帰国して鎌倉腰越の住人になっていたが、私には鎌倉に親戚知人友人はいなくて、懐かしい日本とはいえ現実は海外のドイツの暮らしよりも寂しく、緊張することの多い日々だった。

そんなある日、江ノ電沿線新聞が新聞受けに差し込まれていて何気なく読んでいると、“日独”の文字が目に飛び込んできた。国際交流の会が発足するという。この集まりでドイツを知る人達に出会えて仲良くもなれるだろう、との思いで私は紙面の番号に電話して案内状を送ってもらった。案内文の湘南日独協会設立についての経緯と趣旨は、「今までのビアホールイベントから発展的に日独友好親善のための地域活動として取り組みたい」とあり、「10年にわたり毎年、湘南名物「ドイツフェア」と称する一日限りのビアホールを開いて・・・・市民レベルでの国際交流が望まれる時世でもありますので、この機会に取り敢えず「湘南日独協会」を発足し、国際相互理解進展への一助になればと考えます」と書かれていた。肩の凝らない文章と「取り敢えず発足します」という言葉に心が和み、迷わず参加を申込んだ。

湘南地ビールで懇親会

私の子供３人は今はそれぞれ親になっているが当時はまだ十代で、母親の夕方の外出は簡単にはいかず、家族の夕食、犬のエサやりから散歩まで済ませてからホテルに駆けつけた時には会はすでに始まっていた。

会場ではドイツのワイマール市から、その年の「ミス・ワイマール玉ねぎの女王」がワイマール特産の玉ねぎの“タマネギ娘“として招かれていて、頭上に玉ねぎの冠をつけて会場の正面に立ち、にこやかにその場を賑わせていた

初代会長に岩崎英二郎氏が、副会長に織田正雄氏が就任されて湘南日独協会はスタートした。翌年、1999年5月に湘南日独協会とワイマール独日協会は姉妹協会として文書を交わしている。

気まぐれに会員になった私だが、会報発送の封筒表書きや切手貼りなど事務作業の人手が必要な折に手伝うようになり、それがきっかけで5周年の前に理事の役をお受けすることになった。

ミス・ワイマール
イルカ・ヴァルターさん

岩崎英二郎 初代会長

それからは真面目に本気で活動に参加するようになり、私は多くの時間を湘南日独協会のために使った。その結果、会と一緒に私も成長することができ、一番望んでいた人との出会いにも恵まれ、大切な友人を得ることができた。人とのつながりは個人と個人であってもそこから生まれるエネルギーは大きく、会そのものを豊かにしてくれることも学んだ。

ドイツから贈られた菩提樹の木もまた湘南日独協会と共に成長している。2006年にドイツからワイマール市長が市民128名と共に鎌倉市を訪問し、両市間での交流が行なわれた記念に植樹した。

・2006年2月24日： 鎌倉中央公園内。

ゲルマー市長、鎌倉中央公園に菩提樹を植樹

2011年には日独修好150周年を記念して、150本の菩提樹の苗木がドイツ連邦共和国からドイツ大使館を通じて日本に届けられ、日本各地の日独協会に贈られた。湘南日独協会では3本が次の場所に記念植樹された。

・2011年11月15日：藤沢市、奥田公園入口
（市民会館に隣接）

・2011年11月17日：藤沢市、江ノ電江の島駅
（藤沢行プラットフォームの端）

・2012年4月11日： 鎌倉市、川喜多映画記念館の庭園内

写真は藤沢奥田公園の植樹式
向かって左から筆者、海老根藤沢市長（当時）
当時の湘南日独協会理事の三谷氏、吉田氏

私は３か所すべての記念式典に参加した。その時は１ｍほどの高さだった苗木が、今は見上げるまでに成長している。

江ノ電江の島駅の木を見に行った。藤沢行きのプラットホームを端まで歩くとすぐ右、手の届くところにその菩提樹がある。ドイツ国旗の黒赤黄のプレートに「日独修好150周年記念」と書かれ、木は見上げるほど大きくて、緑の枝がふさふさと元気が良い。

奥田公園の木は通りがかりに見ることができる。藤沢市民会館の奥田パーキング入口が右側に見える小道で左に目をやると記念プレートと共に菩提樹がある。この木はやっと育ち始めた頃に折られてしまうというアクシデントがあった。新たに植えられた木なのでまだ江の島駅ほどには大きくなっていないが、もう安心。十分に育って太くなっている。

25年前に私が湘南日独協会と出会ったように、今また新しい出会いが湘南日独協会を介して生まれ、これからさらに長い年月を湘南日独協会と共に歩んでいくことを心から願っている。

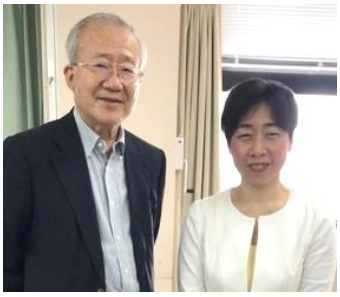
写真は筆者が長年にわたり取り組んでいる「ふじさわ国際交流フェスティバル」の湘南日独協会ブースの様子。

２０２３年のふじさわ国際交流フェスティバルは１０月２９日（日）藤沢駅北口サンパール広場で開催です。今年も湘南日独協会はドイツビールとドイツパンで出店します。皆様のご来場をお待ちしております。

５月例会　講演会

ドイツ菓子マイスター曽根愛さんを迎えて

講師　曽根　愛　氏



会員　藤野　満

向かって左が筆者
右は講師

藤沢市片瀬山で『aus LIEBE』というドイツ菓子店を構えておられる曽根愛（めぐみ）さんの講演を、去る５月２８日に拝聴させて頂きました。

曽根さんにはいつもお電話で注文をお願いするばかりで、一度もお会いすることなく、いつの間にか十数年の歳月が流れましたが、先日、ご講演を拝聴することで、曽根さんがお造りになられる菓子がなぜこれほど美味しいのかようやく謎が解けた次第です。

曽根さんの店のことを初めて知ったのは、時期はだいぶ後となりましたが、たまたま私の義父母が曽根さんのご両親と同じフィリピンに赴任したことから、曽根さんのお嬢さんのお噂を皆様からお聞きしたのがきっかけとなったようです。

曽根さんは幼稚園から小学校をマニラで過ごされたとき、たまたま母親を通じてドイツから赴任されていたドイツ人のご一家と親しくなり、小学校5年の時、ご家族でそのドイツのお住まいを訪問されました。曽根さんはさらにその翌年、小学校６年生という幼い身で、単身で再度ドイツを訪問、ドイツ菓子に間近に触れて、一層興味が湧き、本格的に学びに行くことを夢みられました。

日本に帰国後も中学に通いながら、菓子づくりの学校へ。現地では若いうちから菓子職人の道にはいることをお聞きし、一時は中学卒業後すぐにドイツへの留学を真剣に考えられたようですが、周囲の勧めもあって結局は高校卒業まで待つこととし、その間ドイツ語の習得や生花や学校の茶道部に入るなどして日本文化の吸収に努められ渡航の準備をされました。

１８歳でドイツに留学された曽根さんは、菓子職人の道をスタートし始めました。それと同時に職業訓練所にも通い、算数、社会ほか一般教養についても学習することとなり、慣れないドイツ語での学習にも苦労されたようです。

菓子職人としての見習いを続け、３年目に職人(Geselle)としての試験を受け、優秀な成績で合格しました。給料も倍になり、7年も経つとマイスターの学校への入学資格を得て、半年ほど通学したとのこと。マイスター（Meister）の資格をとる学校ではお店を持った時の経営者として知っておかなければいけない簿記や経営、法律などの科目を学び３日間の筆記試験を受け、さらに実技も同じく３日間の試験があり、母の日や誕生日等テーマを決め、バウムクーヘンなど焼き菓子から飴菓子、チョコレート菓子、アイスクリームなど様々なものを作られたとのこと。ドイツではマイスターの資格を得ると給料は一段と高額な収入が保証されるようですが、労働ビザがないと働けず、資格を取った後はビザが下りず、日本に帰国せざるを得なかったようです。

まさに青春の全てを懸けてお菓子作りに邁進、菓子職人としてマイスターまで取得し帰国される日本人はどれだけ居られるか分かりませんが、おそらく30人にも満たないのではないでしょうか。貴重なお話をお伺いし大変感動いたしました。

講演会会場　後方に講演終了後のお茶席の用意

講師を交えてのお茶席の様子

KONDITOREI CONFISERIE
aus LIEBE
SHONAN

ドイツ菓子 アウスリーベ

マイスターの手により
ひとつひとつ大切に作られた本物の味

神奈川県藤沢市片瀬山４－１１－２
TEL/FAX　0466－61－3596
E-MAIL　info@ausliebe.net
営業時間　10:00－18:00
定休日　水曜日
https://www.ausliebe.net/

６月例会　講演会

シルクロードの思い出と篠笛演奏

講師：井出聖子氏（篠笛作曲、演奏家、歌人）

会員　島　　晃 子

憧れても、なかなか行けない辺境の地シルクロードの旅で出会った少女、子どもたち、人々との思い出を、写真とともに語って下さり、また、その体験や、歴史的背景をテーマに自ら作曲をした曲を篠笛で演奏して下さいました。

この度の講演は、笛を何本かお持ちになって、日本の笛についての説明から始められ、実際に吹いて見せて下さいました。龍笛、能管などについて、出席者から積極的な質問があり、充実した時間となりました。

井出さんは、旅人でもあります。それも辺境の地への旅です。

東の敦煌からはじまり、トルファン、ウルムチ、クチャ、イシククル湖、ホータン、ヤルカンド、カシュガル、サマルカンド、カラ・テパ遺跡、そしてシリアのパルミラ、イスラエル、トルコのアナトリア高原を経て、西のイスタンブールに達するまた、ネパールのカトマンズやサララビヒ村、インドのラジャスタン州など３回も訪れてます。まさに辺境のオンパレードです。

演奏する講演者 井出聖子氏

篠笛演奏は下記のようなものでした。

・「トルファンの花」

今は、新疆ウイグル自治区トルファンは、その昔、古代シルクロードの仏教王国として栄えました。天山山脈を仰ぐ葡萄畑で働く少女たちの生き生きとしたしぐさ、はじけるような笑顔。トルファン民族舞踊団の人々との忘れ得ぬ出会いの思い出を作曲した「トルファンの花」を演奏しました。

・「月と水差し」

井出さんは和田沙都子さんという歌人でもあります。『月と水差し』は井出（和田沙都子）さんの第一歌集名でもあり、その中に次の一首があります。

「イシククル湖の湖底に沈む水差しの
幾千年は月が知るのみ」

イシククル湖の湖底には古代シルクロードの居住の跡がそのまま沈んでいるそうです。

・アナトリアの空へ

東トルコの寒村の少女たちは向学心に燃えていて、奨学金の試験を受けるためにバスに乗り合わせた少女たちが、「アナトリアの空を飛ぶ鳥のように、自分の翼で羽ばたきたい」と歌う歌から生まれた曲。

・アナティルーの希望の花

新疆ウイグル自治区では、近年ウイグル族への弾圧は激しさを増し、強制収容所に収容されている者は数百万人を超えると言われているそうです。ウルムチ、トルファン、カシュガルやホータンで出会った子どもたちは、今どこでどうしているのかとウイグルの民謡を基に作詞作曲した子供たちへの応援歌。

・サマルカンド望郷

シルクロードをサマルカンドから長安を目指したキャラバンが運んだものは黄金だけではなく、戦利品としての歌姫や舞姫が、過酷な旅路の果てに、遠い故郷を偲びつつ、宮中や酒場でその生涯を閉じたのである。その姫たちの思いを、作詞作曲した曲を演奏。

「あふるる思い　尽きせぬ調べ　忘れ得ぬ人よ
恋いし父母　緑ふかき丘よ　花あふるる街よ
月の光となりて　帰らんふるさとへ」

また、日本の古典にも話が及び「古典の中の笛」として、『枕草子』、『徒然草』のなかの笛の話などロマンに溢れる講演でした。

今回の講演を聴講して下さった方から、次のような歌を頂きました。有難うございました。

「篠笛の音色は運ぶ舞姫の
望郷の思いシルクロード越え」

市川厚子様

（次頁に続く）

演奏の合間にご自分で製作される篠笛の構造、演奏方法などの解説がありました。

その祭テーブルに広げられた器具の一部です。

講演会会場

☆

講師が度々訪れた辺境の旅の写真の一部が当日会場で披露されました。

7月例会　講演会

ヘルマン・ヘッセ「少年の日の思い出」とその初稿「クジャクヤママユ」

講師：　岡田朝雄氏

（ドイツ文学者、東洋大学名誉教授）

会員　星野　諭

岡田朝雄先生は1935年（昭和10年）東京でお生まれになり、栃木県に疎開して伊王野村（現那須町）で小中学校時代を送られた。その間に蝶の採集、飼育、標本作製に熱中され、その腕前は県の理科展で二等賞を獲得されるまでになった。趣味に熱中するあまり都立高校の受験には挫折して浪人時代を経験されたものの、その後文学、芸術、そしてドイツ語の学習に目覚められ、ドイツ文学者・翻訳家としての今日に到っている。

講演者 岡田朝雄氏

このたび湘南日独協会では、岡田先生をお迎えして題記講演会を開催した。当日は大勢の会員が集まり、先生のお話を熱心に伺った。

ヘッセの『少年の日の思い出』は、1931（昭和6）年8月1日にドイツの地方新聞に載った短編小説を高橋健二氏が翻訳し、1947（昭和22）年には文部省発行の国語教科書に掲載された。それ以来この小説は今日まで75年にわたってわが国の中学国語の教科書に載り続けている。私もこの話をこの度あらためて読み、遠い過去にも読んでいたという確かな記憶がよみがえった。そして、中学から高校にかけて新潮文庫高橋健二訳のヘッセの作品を多数読んだことを思い出した。岡田先生によれば「少年の日の思い出」はヘッセの『郷愁』や『車輪の下』への自然な導入役を果たしたとのことだが、私の場合にもまさにそれがあてはまる。

その『少年の日の思い出』はヘッセの初期の作品『クジャクヤママユ』（1911年）の改稿版である。

岡田先生はヘッセや北杜夫も顔負けの、蝶や蛾に対する熱烈な収集経験と該博な知識をもとにして、この初稿と改稿の両編を翻訳された。中学教科書の『少年の日の思い出』に出てくる蝶や蛾の名前は、夙に岡田先生のご指摘に基いて正確なものへと修正されているが、訳文自体はいまだに高橋健二氏のもののままである。岡田先生による新訳は『クジャクヤママユ』が「ヘルマン・ヘッセ全集」第6巻（臨川書店、2006年）に、『少年の日の思い出』が『ヘッセ青春小説集』（草思社、2010年/草思社文庫2016年）に収められている。いずれも博物学的にこの上なく正確であるだけでなく、21世紀の現代に生活する私たちにとって読みやすい翻訳となっている。

日本でこれほどたくさんの人に読まれた海外小説はほかにないと思われるが、肝心のドイツやスイスではほとんど知られていない。それにはヘッセのドイツ語の全集に『少年の日の思い出』がいまだに載っていないことが大いに影響しているのではないかと岡田先生はおっしゃる。初稿である『クジャクヤママユ』の方は全集に入っているが、この題名に惹かれて読む者は限られているだろう。私もヘッセの翻訳作品は多数読んだが、たとえば『荒野の狼』は読んでいなかった。題名からてっきりシートン動物記のようなものと思い込んでいたからだ。あるとき、さる同窓の先輩からそれはユング心理学を理解するのに絶好の作品であると紹介されて、俄然興味がわいた。実は『荒野の狼』を読むために臨川書店版『ヘッセ全集』を入手したのだが、読んではじめて動物ものとは全く違うことがわかった。講演後に岡田先生から「あの全集のために私が苦心して翻訳したのが『シッダールタ』です」と教わった。有り難いことに全16巻中私が読了していたのは『荒野の狼』と『シッダールタ』の二つだった。他の作品と合わせて是非もう一度読んでみたいと思っている。

岡田先生は同好の新部公亮氏と、北杜夫の作品に出てくる昆虫の実物標本を網羅した「どくとるマンボウ昆虫展」や、同じく「ヘッセ昆虫展」を日本全国各地やドイツおよびスイスで開催された。ヘッセの遺品である蝶標本の同定もされるなど、ヘッセ研究に幅広く貢献されている。こうした経緯や、北杜夫氏および同窓の俳優児玉清氏との交流などは先生の『忘れえぬ人びと』（朝日出版社、2017年）に詳しく書かれている。

講演後の懇親会は先生のお話と会員の皆さんとのやりとりで大いに盛り上がった。会計ご担当役員の大澤由美子さんによると、「ヤママユ」は蚕と同じくその繭玉から糸がとれるが、その色合いに様々なバリエーションがあり、気に入った色のヤママユ糸を入手するには何年も待つ必要があるとのこと。すると名誉会長の大久保さんから「生糸については一言あり」とのご発言あり。大久保さんのご出身地は養蚕が盛んだったそうである。懇親会は終始この調子で、談論風発の一夜であった。岡田先生は当会の初代会長の岩崎英二郎先生とも交友がおありだった。

また当会会員の高橋忠夫さんには、岡田先生との運命的な出会いから今回のご講演のご縁をつないでいただいた。高橋さんは岡田先生が編集代表を務められている『未定』の同人でもあられることを申し添えておきたい。

講演者と懇親会

講演会会場

湘南日独協会BIERFEST-２０２３賑やかに終了

７月１９日　17:00～20:00
イタリアレストラン　Tanto Tanto

イタリア料理を味わってから、飲み放題歌い放題の３時間、店内は満席の盛況、昨年はフランス料理で、コロナの感染状況から人数は抑え気味でしたが、今年は湘南日独協会混声合唱団の団員が練習帰りに参加するなど、楽器を持ち込んでの参加者もあり、賑やかなBierfestでした。

「SWZドイツ語で歌おうの会」の皆さんは日頃の練習の成果を、指導役の木原副会長の下に、大いに歌い、アルプス音楽の各種の楽器を演奏する鬼久保理事は珍しい楽器の演奏を披露、合唱団アムゼルの皆さんは時に美しいハーモニーを聴かせてくれました。

SWZ ドイツ語で歌おうの会　案内

よく知られたドイツ民謡や、映画音楽など、色々なドイツ語の歌を歌います。楽譜は読めなくても大丈夫です。ドイツ語の発音、その意味、歌の歴史的地理的な解説もあります。気軽にご参加下さい。

アムゼル活動近況

アムゼル代表　理事　田中満穂

7月23日の藤沢合唱祭参加が無事に終わりました。今年は次の2曲を歌いました。① Wenn der Wind weht.（曲：W.R.ハイマン、詞：R.ギルバート）② Musik! Musik! Musik!（曲：P.クロイダー、詞：H.F.ベックマン）

8月16日には10月7日に開催されるゾーリンゲン国際合唱祭にビデオ参加するための本番録音を本郷台リリスホールで行いました。上の写真はそのリハーサル風景です。

演奏曲は次のとおりです。①さくらさくら(日本語)②荒城の月（日本語）③An Cloë(クローエに　ドイツ語)④Wiegenlied(ブラームスの子守歌　ドイツ語)⑤Auf Flügeln des Gesanges（歌の翼に ドイツ語）⑥Musik! Musik! Musik!（ドイツ語)の6曲です。この演奏曲はそのまま10月21日（土）のミニコンサートでも演奏する予定です。

☆

ゾーリンゲン国際コーラスフェスティバル

2018年５月、湘南日独協会創立20周年・混声合唱団アムゼル15周年記念コンサートを開催後、ドイツのゾーリンゲンで定期的に開催されている、国際コーラスフェスティバルへの参加要請が届き、参加方向で検討して来ましたが、コロナ騒ぎで現地での参加が難しい状況にありました。今年は10月７日の開催が決まり、ビデオによる参加も可能となりました。

今年のドイツ以外の国からの参加団体は世界各地から１０団体、その多くは、各地のドイツ人学校が中心となっています。日本からは「アムゼル」のみとなっています。

劇場便り 34

ブレーマーハーフェン　志賀トニオ氏

８月はドイツでは秋の始まり。そして劇場の新シーズンの始まりでもあります。ドイツでは夏休みの時期が州ごとに異なる制度があり、その時期も毎年変更になる為、その年によって、もしくは州によっては９月にシーズンが始まる事もあります。夏休みの変動制はメリットも多いのですが、家族の一部が別の州に居住している場合、夏休み期間が異なる為、運が悪いと短期間しか休みを共有できないデメリットもあるようです。夏休みは６週間あったのに、家族（カップル）で出かけられたのは２週間しかなかった！等の愚痴を音楽家の仲間からはよく聞くものです。そしてドイツ人の休み明けの決まり文句は、夏休みが６週間じゃ足りなかった！あと１週間は多めに必要だ！！

私達家族は４年ぶりに日本に帰省する事ができました。私自身は昨年、一昨年と単身で帰省していましたが、子供達にとっては久しぶりの日本。昨年からロシア上空を飛べなくなった影響等で、飛行時間が長くなり、飛行機代も高騰してしまいましたが、そこは家族の為に頑張りました。

今回は初めてアラブ首長国連邦のエティハド航空でアブダビ経由に乗りました。中東の飛行機会社は評判が良いと聞いていましたが、予想通りとても快適でした。特に子供連れに対するサービスが良く、手荷物のチェックや搭乗手続きを優先してくれたり、機内では子供向けのおもちゃ等をもらいました。アブダビには夜８時に到着し、気温が４１度！飛行機から一度外に出てバスに乗る必要があった為、その暑さを直に体感しました。これはきっと日本滞在時の猛暑の準備だったのかもしれません。

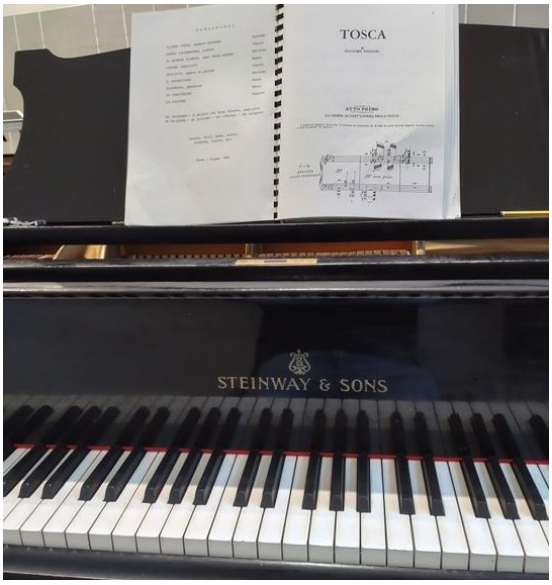
そして日本到着。我々はあえて鈍行列車で成田空港から大船駅へ。成田エクスプレスにも乗れるのですが、そうすると下界と遮断されて、大船駅まで飛行機の延長のようになるのです。そこからタクシーに乗ったら、まさに別世界のまま自宅に到着してしまいます。体力的にはその方が楽で、仕事がすぐある時等は、私もそうするのですが、鈍行列車に乗ると成田駅に到着した瞬間から下界に降りて"日本"を感じる事ができるのです。成田駅で乗り込んで来る普通の乗客達。その服装や立ち居振る舞いを見て、日本だなあと感じるのです。成田駅から千葉駅までは私のお気に入りの風景。東京ではまずお目にかかれない田園風景で始まり、徐々に大都市になっていく。そして東京駅に到着すると沢山のスーツ姿の乗客が乗り込んで来る。その瞬間に東京に来たんだな、来れたんだなって感動するのです。そして横浜駅に到着すると、やっと自分の庭に帰ってきたと思います。こうして２時間半電車に乗っている間に自分の頭の中がドイツから日本に完全に切り替わるのです。

日本滞在期間は４週間。今回は特に仕事も入れず目いっぱい家族の為に時間を使う事ができました。これもドイツ的な考え方で、休み中は仕事をしてはいけない事になっているのです。リフレッシュする事で仕事の効率を上げる事が目的である為、休む事自体が仕事の一部という考え方なのでしょう。日本人にはなかなか馴染みのない事なので、我々のように４週間も滞在していると、第２週目辺りから変な目で見られるようになるものです。

さて、ここからはブレーマーハーフェン歌劇場の話に戻りましょう。今シーズン最初の演目はプッチーニ作曲のトスカです。プッチーニの作品の中でラ・ボエームと並ぶ最高傑作と言えるでしょう。トスカはロストック音大時代に取り組み、ミュンヘンの小さな歌劇場でも、ドイツ語版でやった事があり、思い入れのある作品です。今現在立ち稽古の真っ最中で毎日ピアノを弾いていますが、改めてこのような作品に向き合う事ができる喜びを感じています。

今シーズンは他に、ヘンゼルとグレーテル、ルサルカ、メリーウィドウ、ばらの騎士等の名曲が並びました。この他に私はモンティパイソンのミュージカル、スパマロットの指揮者に抜擢されました。この作品はこれまでに現存する様々な作品のパロディーなのですが、実は現社会を風刺していて、ただのパロディーではない奥深さがあります。（了）

ご家族で東京ディズニーランドと海



劇場での練習室　トスカの楽譜

注：文中の「劇場便り第１回」の掲載は
2016年11月号です。　（編集者）

湘南日独協会主催

秋のミニコンサート

日　　時：2023年10月21日(土)14:00～16:00
会　　場：藤沢市民会館２階 第１集会展示ホール
参加予約：はがき・ホームページ・メール
会　　費：2,000円（当日受付でお支払いください。）

「出演予定演奏家」「演奏予定の曲目」

ピアノ ：　高橋 愉紀

ラフマニノフ　プレリュード　作品3の2
楽興の時　作品16の3ロ短調　他

ヴァイオリン ：　松野 美智子
（ピアノ伴奏 ：　高橋 愉紀）

ヴィターリ　シャコンヌ(シャルリエ版)
ハチャトリアン ノクターン　他

古 箏 ：　伊藤志津子

曲目　「採茶捕蝶」「雪山春暁」

アルペンホルンとプサルタリー ：　鬼久保 洋治

アルペンホルン　曲目　Blausee
プサレタリー　曲目　ウイーン我が夢の町

湘南日独協会混声合唱団アムゼル
(指揮:梶井智子、ピアノ伴奏：内海祥子)

日本古謡	さくらさくら
滝廉太郎	荒城の月
モーツアルト	クローエに
メンデルスゾーン	歌の翼に
ブラームス	子守歌　他

皆さんとご一緒に歌う曲も用意しています。
ぜひ参加して楽しんでください。
詳細は同封のチラシをご参照ください。

「予告」 湘南日独協会設立２５周年
日本文化に親しむ会

お茶（茶道）とお香（香道）を通して、レクチャー付きで楽しんで頂きます。
会場は立礼(椅子席)と座礼の２会場といたします。

日　　時	2024年5月19日(日)10:30～15:30 各会場　10名　計：20名
体験内容	薄茶（裏千家）と お香（泉山御流）
指　　導	小川 宗和　　小島 邦香
会　　場	宇庵（横浜市栄区田谷町１４８２）
会　　費	４，０００円（予定）

会場予定の宇庵

会員の演奏会の案内

チケットは直接取扱所へお願い致します。
詳しくは同封のチラシをご覧ください。

同封の新聞をお読みください

湘南日独協会創立25年を記念して、江ノ電沿線新聞７月号に特集記事を掲載しました。
協会のサークル活動の中から「ＳＡＳ：談話室」「ＳＷＺ：ドイツ語で歌おうの会」「読書会」の各会のメンバーの方に語って頂きました。記事は、同封の江ノ電沿線新聞の4，5ページの見開きに載っています。
是非、ご一読いただき協会の活動についてご理解頂けましたら幸いです。

☆

新入会員紹介（敬称略）

星野論　　横山みつこ　　河相薫

ご寄付への御礼

今期に入りこれまでに次の方々よりご寄付を頂きました。御礼を申し上げます。金額と敬称は省略させて頂きます。（五十音順）

秋山友一	今岡檀	大久保明	織田正雄
奥山富夫	勝亦正安	川崎英憲	齋藤和夫
島新	清水孝祐	杉本暁史	西山忠壬
堀田清郎	松川倫子		

編集後記

- このDer Windが皆さんのお手元へ届くころには酷暑とも言える暑い夏も終わっていることを祈っております。
- 1998年11月14日湘南日独協会の創立総会が開催され、今年は２５周年の記念の年です。コロナの影響で記念行事が来年以降になるなどの影響はありますが、準備中です。多くの皆さんのご参加を頂きたいと願っています。
- 同封しております、江ノ電沿線新聞の座談会を是非お読みください。当協会の活動の一部がお分かりいただけると思います。合唱団アムゼルも含めて新しい会員が増えています。皆さんのお知り合いを是非お誘い下さい。　（大久保）

湘南日独協会催事カレンダー(2023年9月～2024年01月）09月01日現在の情報です

9月	**見て聴いて楽しむ音楽史（第20回）**	8日（金） 14:30-16:30 江ノ電第２ビル ７階 湘南アカデミア 会費1,000円 演題：国民楽派 北欧編 講師：高橋善彦氏 （湘南日独協会理事） 取り上げる曲：シベリウス
	読書会	5日（火） 15:00-17:00 ミナパーク５０５ 会費：1,000円 19日（火） 15:00-17:00 ミナパーク５０５ 会費：1,000円
	談話室SAS	12日（火） 15:15-17:15 江ノ電第2ビル 4階 会費：1,000円
	SWZ	21日（木） 15:00-17:00 ミナパーク５０７ 会費：1,000円
	講演会	24日（日） 14:30-16:30 江ノ電第２ビル ７階 湘南アカデミア 会費1,000円 演題： 子規の遺したもの 講師： 藤野 満氏 （湘南日独協会会員） 概要： 俳句や短歌を革新した明治の文学者正岡子規は、脊椎カリエスという重い病で３６歳の短い生涯を終えた。子規の縁者で幼少の時から子規の生涯に接してきた講師が、遺されたものを紹介し、現代の生き方への参考を念頭に語る。 懇親会：有り
10月	**見て聴いて楽しむ音楽史**	休止
	読書会	3日（火） 15:00-17:00 ミナパーク５０５ 会費：1,000円 17日（火） 15:00-17:00 ミナパーク５０５ 会費：1,000円
	談話室SAS	10日（火） 15:15-17:15 江ノ電第2ビル 4階 会費：1,000円
	SWZ	19日（木） 15:00-17:00 ミナパーク５０７ 会費：1,000円
	ミニコンサート	21日（土） 14:00-16:00 藤沢市民会館 会費：2,000円 詳細はホームページ・チラシ参照
	講演会	22日（日） 14:30-16:30 江ノ電第２ビル ７階 湘南アカデミア 会費1,000円 演題： 調停委員回顧 一 家族法改正のうねりが続く 講師： 笹 信夫 （湘南日独協会会員） 概要： この２０年間、日本の家族法は、女性の地位向上を図るものなど画期的で特筆に値する改正を行なった。一方ライフスタイルの多様化、技術の進歩は、家族法にさらなる改正を求めている。絶えざる改革は、市民法の宿命である。 懇親会：有り
	藤沢国際交流フェスティバル	29日（日） 11:00-15:00 ＪＲ藤沢駅北口 サンパール広場
11月	**見て聴いて楽しむ音楽史（第21回）**	2日 （木）14:30-16:30 江ノ電第２ビル ７階 湘南アカデミア 会費1,000円 演題：ロシアの音楽 講師：高橋善彦氏 （湘南日独協会理事） 取り上げる曲：チャイコフスキー
	鎌倉国際交流フェスティバル	5日（日） 10:00-15;00 高徳院（鎌倉大仏殿） 概要： 約20団体の中の一団体として、当協会の会員がリーダーのアルペンホルングループ（ダンケシェーン）が、出演する。
	読書会	7日（火） 15:00-17:00 ミナパーク５０５ 会費：1,000円 21日（火） 15:00-17:00 ミナパーク５０５ 会費：1,000円
	談話室SAS	14日（火） 15:15-17:15 江ノ電第2ビル 4階 会費：1,000円
	SWZ	16日（木） 15:00-17:00 ミナパーク５０７ 会費：1,000円
	講演会	26日（日） 14:30-16:30 江ノ電第２ビル ７階 湘南アカデミア 会費1,000円 演題： 人新世と絶滅かという21世紀に人類はどう生きるか一日独市民への期待 講師： 外岡 豊氏 （埼玉大学名誉教授） 概要： 人類が起こした地球環境の危機（気候危機、企業活動の大加速）、情報技術社会を市民は制御出来るか、起死回生の新技術期待、米ソ対立から米中対立、先行自滅日本を立て直すヒントを拾う、絶滅回避、人類社会蘇生に向けて日独市民が出来ること 懇親会：有り
12月	**読書会**	5日（火） 15:00-17:00 ミナパーク５０５ 会費：1,000円 19日（火） 15:00-17:00 ミナパーク５０５ 会費：1,000円
1月	**1月の行事は項目のみ記載、詳細は12月に発行予定の次号に掲載予定**	
	見て聴いて楽しむ音楽史	会場の都合により休会
	読書会	16日（火） 15:00-17:00 ミナパーク５０５ 会費：1,000円
	談話室SAS	9日（火） 15:15-17:15 江ノ電第2ビル 4階 会費：1,000円
	SWZ	18日（木） 15:00-17:00 ミナパーク５０７ 会費：1,000円
	講演会	28日（日） 14:30-16:30 江ノ電第２ビル ７階 湘南アカデミア 会費1,000円 講師： 高川邦子氏 概要： 1941年初めに、ハンガリーに着任された特命全権大使大久保利隆が、決死の覚悟で帰国しヨーロッパの戦況を報告し、戦争終結を説いて回った事などを中心に、孫である講師が、秘話を披露される。 懇親会：有り

参加される皆様へ 準備の都合上、早めにお申し込みください

各催しは変更される場合があります 最新の予定を当協会のホームページでご確認ください

URL ： https://jdg-shonan.ciao.jp/ 右記のQRコードからもアクセス出来ます